

福井工業高等専門学校		開講年度	令和03年度（2021年度）		授業科目	ドイツ語	
科目基礎情報							
科目番号	0181			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電気電子工学科			対象学年	5		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『新生ドイツ語文法　V 6』（朝日出版社）						
担当教員	廣重　準四郎,森　　貞						
到達目標							
辞書と教科書を参照すれば、中級前半程度までのドイツ語の文章が訳読でき、ドイツの歴史や文化に深い関心を抱くことができ、提示された課題等に意欲的に取り組めること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	辞書と教科書を参照すれば、中級前半程度までのドイツ語の文章が十分訳読できる。			辞書と教科書を参照すれば、中級前半程度までのドイツ語の文章がある程度訳読できる。		辞書と教科書を参照しても、中級前半程度までのドイツ語の文章が不十分にしか訳読できない。	
評価項目2	ドイツの歴史や文化に極めて深い関心を抱くことができる。			ドイツの歴史や文化にある程度深い関心を抱くことができる。		ドイツの歴史や文化に深い関心を抱くことができない。	
評価項目3	提示された課題等に極めて意欲的に取り組むことができる。			提示された課題等にある程度意欲的に取り組むことができる。		提示された課題等に意欲的に取り組むことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 RA1 JABEE JA1							
教育方法等							
概要	学生が将来、研究や仕事の上でドイツ語で書かれた文献を読む場合に必要な基本的文法事項の修得と語彙力および読解力の養成を目指す。併せて、ドイツ語の学習を通じて、学生がドイツ語文化圏の特徴を把握する異文化理解力を身につけることも目標とする。						
授業の進め方・方法	概ね前期は初級文法後半の学習、後期は初級／中級の文章の講読を混じえながら中級文法前半の学習を行う。語彙力や読解力の幅を広げるために、録音テープやビデオ教材も随時活用する。						
注意点	成績評価は2回の期末試験（評価割合は合計で80%）および小テスト（評価割合は合計で20%）結果の合算により行い、100点満点の総合得点で60点以上を合格とする。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業概要、既習事項の総復習		既習事項が理解できる。		
		2週	形容詞の格変化（1）		強変化が理解できる。		
		3週	形容詞の格変化（2）		弱変化が理解できる。		
		4週	形容詞の格変化（3）		混合変化が理解できる。		
		5週	話法の助動詞（1）		話法の助動詞を現在人称変化させることができる。		
		6週	話法の助動詞（2）		話法の助動詞の用法が理解できる。		
		7週	未来形		未来形が理解できる。		
		8週	複合動詞（1）		分離動詞と非分離動詞を現在人称変化させることができる。		
	2ndQ	9週	複合動詞（2）		分離・非分離動詞を現在人称変化させることできる。		
		10週	聴き取り練習（1）ミュンヘン紀行		ビデオ教材の単語の聴き取りができる。		
		11週	再帰動詞		再帰代名詞と再帰動詞の用法が理解できる。		
		12週	zu不定詞		zu不定詞の用法が理解できる。		
		13週	動詞の三基本形		動詞の三基本形が理解できる。		
		14週	過去人称変化		動詞を過去人称変化させることができる。		
		15週	接続詞		接続詞の種類と用法が理解できる。		
		16週	前期期末試験				
後期	3rdQ	1週	複合時称（1）		現在完了の形と用法が理解できる。		
		2週	複合時称（2）		過去完了・未来完了の形と用法が理解できる。		
		3週	受動形（1）		受動の6時称を理解できる。		
		4週	受動形（2）		能動文と受動文の関係が理解できる。		
		5週	受動形（3）		動作受動と状態受動が理解できる。		
		6週	比較表現（1）		比較級・最上級の用法が理解できる。		
		7週	比較表現（2）		副詞の比較の用法が理解できる。		
		8週	聴き取り練習（2）ミュンヘン紀行		ビデオ教材の単語の聴き取りができる。		
	4thQ	9週	時刻の表現		時刻の表現ができる。		
		10週	関係文（1）		定関係代名詞の用法が理解できる。		
		11週	関係文（2）		不定関係代名詞の用法が理解できる。		
		12週	関係文（3）		関係副詞の用法が理解できる。		
		13週	接続法（1）		接続法第1式の用法が理解できる。		

		14週	接続法（２）	接続法第２式の用法が理解できる。
		15週	学習の総まとめ	既習事項全体が理解できる。
		16週	後期期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0